自分史

1.家庭状況

●家族構成

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 続柄 | 年齢 | 職業 | わたしの意思をどの程度理解しているか |
| 父 | 50 | 銀行員 | 未カミングアウト　理解してくれそうにない |
| 母 | 50 | 飲食業 | 未カミングアウト　ボーイッシュな子くらいに捉えていると思う |
| 兄 | 23 | 学生 | カミングアウト済み　理解あり |

●家庭環境

基本的に自由な家庭だった。

勉強や習い事も自分次第で行っていたし、「あれしなさい」「これしなさい」と言われることはあまりなかった。

ただ、自分は女の子として生まれてきたので、女の子らしい服装や髪形、態度を求められることはあった。

父は、「女の子なんだから家事を手伝いなさい」と言ってくることが時よりあった。

料理をするのは好きだったが、「女の子なんだからやる「「料理好きなんだからやっぱ女の子だね」と家族や周囲の人に言われるのが嫌で、やらなくなった時期があった。

また、兄がいたので、家族の兄に接する態度と自分に接する態度が異なることが気になっていた。

父は、兄にはよく怒るが私には怒らなかったり、兄には家事の手伝いを口うるさく言わなかったりなどが挙げられる。

母とは、購入してくる服のことでよくケンカをしていた。スカートやフリフリしたような服を買ってくるが、自分が着ないので喧嘩になることが多かった。

2.既往歴

特に無し

3.幼年～学童期にかけて

●小学校

・ランドセルの色：赤

・服装について：好む服装はメンズもの

・恋愛：恋愛対象は女性

・現在の性別での悩みや苦痛であったことなど：

物心ついた頃から、なんとなく自分が女の子であることや女の子らしくすることに違和感があった。

幼稚園の頃は、そこまで性別というものを気にしていなかったので、苦痛というほどではなかったが女の子らしい服装や髪形、言葉遣いや態度を強要されることは嫌だった。

七五三の着物服などは特に嫌いで、ずっと不機嫌だった記憶がある。

小学校に入ってから、服装などは私服で自由になったが、母に与えられるものが女の子用のものが多く嫌だなと思っていた。

ただ、自分が女の子として生まれてきて女の子として育てられているという事は理解していたので、必要以上に拒むことは“おかしな子だと思われる”と思って我慢していた。小学校4年生の時に野球を始めたので、「野球の練習をするから動きやすい恰好の服が欲しい。髪が邪魔だから切りたい。」と“野球のために”という理由でメンズ物の服を買って貰ったり、髪を短くしていた。

家族や教員は、少し性格が男の子らしくても野球をやっているから仕方がないと大目に見てくれていた。

4.思春期

・初潮：中２

●中学校

・制服：中学時代は、スカートにリボンの女性制服を着用していました。

・普段の服装：メンズ服がほとんどでした。

・クラブ活動：ソフトボール部

・恋愛：恋愛対象は女性／好きな子はいましたが、告白をしたりする子はなかったです。

・現在の性別での悩みや苦痛であったことなど

中学に入ると第二次性徴期が訪れ、身体が徐々に女性らしく変化していきました。

その変化が非常に苦痛で仕方なかったです。

初潮がきた時は、「やっぱり女なんだな」と改めて認識させられて、嫌で仕方なくて泣いていた記憶があります。

また、周囲の男の子と自分を比較し劣等感を抱くことがありました。

男の子は身長が伸びて、声が低くなって、どんどんガタイが良くなっていくのを目の当たりにし、うらやましく思うこともありました。自分もそうなりたかったと心から思っていました。

制服は男女で分かれていたため、制服を着ているだけで、私は女の子ですと言っている様でとても嫌でした。

　自分が何者なのかわからずに、調べているときに性同一性障害という言葉を知りました。自分は、「これなんだ」と思いました。調べていくうちに同じ境遇の人や性同一性障害の特徴を理解し、当てはまると思いました。

●高校

・制服：高校時代もスカートにリボンでした。嫌でしたが、嫌だと周囲にいう勇気はなかったです。

・普段の服装：メンズ服のみ

・クラブ活動：ソフトボール部

・恋愛：恋愛対象は女性

高校2年生の頃、彼女ができました、性同一性障害であることをカミングアウトしたうえで、お付き合いしていました。彼女は、自分を男として接してくれていました。

・現在の性別での悩みや苦痛であったこと

中学の頃抱いていた感情はずっと心にありました。

また、思春期真っ盛りで好きな子の話などを振られたときは嘘をついて、彼女がいることは話さないようにしていました。日々、女性として生きていることに対する嫌悪感や違和感は増加していく一方でした。

高校に入るころには、将来的に性別適合手術を行い戸籍変更まで終えようと決めていました。高校2年生ごろからアルバイトをして、費用を貯めていました。

　同じく、高校2年生ごろから徐々に友人へのカミングアウトを行いました。友人は受け入れてくれる子がほとんどで安堵しました。

家族には、卒業間際にカミングアウトをしました。まず、兄に話したのですが、年も近いことがあり理解してくれました。次に母に話しましたが、母には理解してもらえず、手術には否定的な意見でした。母は「孫の顔が見たかった、手術なんてしなくてもいいじゃない」と泣きながら言っていました。父にも話しましたが、可もなく不可もなく何を考えているのか現在もよくわかりません。

いくら家族に反対されようと自分の意思は揺らがないのは確かだなと思いました。

●専門学校・大学

・服装：メンズ服

・学習分野：生活支援学部

・サークル活動：軽音

・恋愛：恋愛対象は女性。大学時代は、数人の女性とお付き合いしました。

必ず、カミングアウトをした後で、交際を始めていました。

・現在の性別での悩みや苦痛であったこと

大学の人には、最初からカミングアウトをしていたので、みんな男として接してくれていました。

カミングアウトをしていたからこそ、トイレの使用は男女トイレではなく多目的トイレを極力使用するように心がけていました。

大学の頃は、胸をサラシでつぶしたりもしていました。早く治療をしたい一心だったので、大学が終われば、すぐにバイトに行き朝まで働いていました。

5.カミングアウトについて

●カミングアウトの有無

高校2年生以降は、どちらかというと積極的にカミングアウトをしていました。

●カミングアウトの範囲

友人・家族・バイト先など、関わる人には基本的に全てカミングアウトをしていました。

6.身体の変化についてどう思い、どう対処したか

非常に嫌でした。胸もいらないし、生理もいらないと思っていました。

身長が伸びなくて、周りの男のこと比べては落ち込んでいました。

運動をしていたので、高校まではサラシを巻いて学校に行くことはありませんでしたが、ブラジャーだけは絶対に嫌だと思っていたので、スポブラなどを着用していました。

生理であることを悟られないように、校舎から少し離れたトイレを使用したりしていました。

7.今後どうしていきたいか（どのような治療を望むか）

ホルモン療法・胸オペ・性別適合手術を行う予定です。

ホルモン療法はなるべく早いタイミングから開始し、胸オペと性別適合手術に関しては、大学在学中にタイに渡航し、手術を受けたいと考えています。